



特集
西海国立公園
九十九島水族館

7月18日
グランド
オープン!

「海きさらら」 を楽しもう。

多くの島々に囲まれた海
多様な生き物たちが暮らす海
人々の暮らしを支える海
昔から変わらない姿で
すべてのものを
支えている海

「九十九島」

この海に生まれた
一つ一つの生き物たちを
「海きさらら」は紹介します

イルカがキターッ!

5月27日、3頭のイルカたちが本市に到着し、新設されたばかりのイルカプールに移されました。

到着前日の夕方、和歌山県太地町にあるイルカ飼育施設「ドルフィン・ベイエス」を出発したイルカたちは、水を張ったコンテナの中でイルカ専用の担架に乗った状態のまま、トラックで約14時間、距離にして約970キロを陸路で輸送されました。到着後、フォークリフトで輸送用トラックから小型トラックに移されたイルカは、水族館のバックヤードに運ばれ、一頭ずつ担架ごとクレーンで吊り上げられ、イルカプールに移されました。3頭のイルカたちは長旅の疲れも見せず、

新しい住まいとなるプールで寄り添いながら楽しそうに泳ぎ回っていました。

3頭のイルカはいずれも推定4〜5歳のメスです。ハンドウイルカは、遊び好きでのおんびり屋さん、恐がりなけどしっかり者の2頭。もう1頭のハナゴンドウは追いかけるのが大好きで、角張った頭をよく見ると、白い模様が花のようにも見えます。

イルカたちが元気に泳ぐプールは、直径11・5mで、水深4・5m。プールサイドには観客席(70席)が設けられ、イルカと触れ合うことのできる体験や、優秀な頭脳・運動能力を紹介するプログラムなどが準備されています。

美しい景観と豊かな環境に恵まれた西海国立公園九十九島はわたしたち市民の大きな誇りであり、掛け替えのない財産です。しかし、全国での知名度は高まりつつあるものの、まだ十分とは言えないのが現状です。
この九十九島の魅力を「多くの人に」「正確に」「分かりやすく」情報発信していく手段として選ばれたのが「水族館のリニューアル」でした。以前の水族館は西海パールシーセンターの一部の施設でしかなく、展示できる魚種や数、内容などが制限されていました。
この水族館部分を拡張し、多様な生き物が息づく豊かで美しい九十九島を表現したのが、今月18日にリニューアルオープンする西海国立公園九十九島水族館「海きさらら」です。
平成10年度に策定された「西海パールリゾート再活性化基本計画」、同15年度の「西海国立公園海のダイヤモンド計画」などを経て、同19年度に着工した「海きさらら」は、国内では珍しい屋外型水槽「九十九島湾大水槽」や国内最大級を誇る「クラゲシンフォニードーム」、イルカを観察できる「九十九島イルカプール」など、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことのできる施設になりました。